

ソーシャルメディアを基点としたGIS技術情報交換コミュニティの形成 Organizing a Community on GIS Related Technologies Utilizing Social Media

伊藤 昌毅^{1*}

Masaki Ito^{1*}

¹ 鳥取大学

¹Tottori University

はじめに

本稿では、Twitterを中心とするソーシャルメディアが可能にした、地理情報システム(GIS)技術を中心とする技術情報交換コミュニティの形成について報告する。著者の周辺では、大学や研究機関、企業や公的機関などに所属する多様な人々が集まり、Twitterを利用して日々情報交換や技術動向の議論を続けている。加えて、2010年6月には著者を中心として技術勉強会を開くなど、今日に至るまで継続的で活発なコミュニティが持続している。本稿では、こうしたコミュニティ形成を概観し、研究活動にソーシャルメディアがもたらす可能性について議論する。

Twitterを用いたGIS技術情報交換コミュニティの成立は、Twitterの普及が始まった2009年頃のことである。11月に開かれたFOSS4G TokyoというオープンソースGISユーザの会議が、GIS技術関係者によるTwitterを用いた情報交換の最初期のものである。この時、参加者が発表の感想などをハッシュタグを付けてつぶやき合い、それをきっかけとして参加者同士の相互フォローが始まった。GIS技術の議論は、この時の参加者が一つの母体となって進行している。

Twitterでの議論は、オープンソースの利用や、WebGISの開発、Volunteered Geographic Information(VGI)や新規技術の開発など、比較的新しくオープン指向な技術やデータの活用が話題の中心となることが多い。

Twitterの特徴と活用

これまで、ML、blogなどによる情報交換の場は存在したが、Twitter独特の開放性と緩やかな継続性、それらを強化するツールの活用により、独特の雰囲気をもつ情報交換が続いている。以下に、その特徴を示す。

「玄人」を結び付けるネットワーク

Twitterは、自分のつぶやきだけでなく、興味のある他の利用者を「フォロー」し、つぶやきを時系列で一覧表示して(タイムライン、TLと呼ぶ)利用する。この関係によって、緩やかなネットワークが形成される。他のフォロワーが閲覧できる状態で特定の相手へつぶやくことも出来、更に発言が加わることで話が展開してゆくことも多い。Twitterには、他人であっても挨拶なしで話しかける文化があるが、140字以内の文章から情報を読み取り、その話題に対して発言出来る者が発言するという側面もある。こうした参加の容易性と参加時のフィルタリングによって、共通の関心を持つ者を広く集めるTLを各自が形成してゆく。

地図を軸とした越境的なコミュニティの構成

GIS技術に関する発言をする人々の背景は、情報工学や空間情報科学分野の研究者、防災、考古学、地理学分野などの研究者、広く地図に関係した一般企業や公的機関に所属する者など様々である。これは、Twitterそのものの開放性だけでなく、地図という話題の広さや趣味性の高さが関係していると考えられる。この結果、技術の話題でもユーザの視点やビジネスの視点、情報提供者の視点など様々な視点が含まれる、拡がりを持った議論が実現している。

Togetterの活用による文脈の明示化と議論の促進

Togetterとは、Twitterへのつぶやきを拾い集め、ひとつのWebページにまとめるサービスである。140文字しか入力できず過去の情報へのアクセスが困難なTwitterでは、本来深い議論を継続することは困難である。しかしTogetterにまとめることで、議論の流れを再確認出来、文脈を踏まえた発言が容易になる。また、発言がまとめられたことが更なる議論を誘発することもある。

GIS技術勉強会の開催

Twitterにおける、WebGISを中心とした連日の議論の盛り上がりを受けて、著者が主催する形で2010年6月25日に3名が講演する第1回Web時代のGIS技術勉強会を開催した。開催にあたっては、ソーシャルメディアが活用された。勉強会の告知はTwitterでRetweetされ広まった。イベントの告知や参加登録を支援するアテンドを用いることで、勉強会参加者の把握が容易になった。当日の様子はUstreamによりビデオ中継し、参加できなかった者にも届けられた。発表スライドはslideshowを利用して共有され、現在でもWebから確認できる。当日の勉強会に関連したつぶやきは400件を超え、活発な議論を裏付けた。

おわりに

GIS 技術を中心とする議論はその後も続き、2011 年 3 月には第 2 回勉強会を計画している。位置情報技術の応用を目指すジオメディアや、ランドスケープデザインなど緩やかに興味を共有するグループとの情報交換も密であり、Twitter をきっかけとする技術開発やミーティングなども活発に行われている。著者自身の研究活動においても、技術的な質問や研究方針に関わる議論など、Twitter に依るところも大きい。一方で、Twitter はどんなに親密な雰囲気があるうとも完全公開の場であり、構想中の研究を議論する場としてはためらいが残る。ソーシャルメディアの可能性を最大限活かした学術活動の確立には、まだ試行錯誤が必要である。

キーワード: GIS, ソーシャルメディア, コミュニティ形成, Twitter

Keywords: GIS, Social Media, Organizing Community, Twitter